

## 微生物殺虫剤ボタニガードE Sによる野菜類のコナガの防除

農業・園芸総合研究所

### 1 取り上げた理由

ボタニガードE Sは昆虫病原糸状菌ポーベリア・バッシアナを主成分とする乳剤タイプの微生物殺虫剤で、コナガに対し防除効果を示す。この菌は昆虫類に感染し死亡させるカビの仲間で、ほ乳類などには感染しないきわめて安全性の高い糸状菌である。さらに、化学合成農薬としてカウントされないため、有機栽培や減農薬栽培でも使用できるので参考資料とする。

### 2 参考資料

1) 微生物殺虫剤のボタニガードE Sは、キャベツのコナガに対し、対照薬剤のゼンターリ顆粒水和剤(B T剤)とほぼ同等の防除効果がある(図-1)。

薬剤名 ポーベリア・バッシアナ剤(商品名:ボタニガードE S)

a 有効成分:ポーベリア・バッシアナ(Beauveria bassiana)G H A株  $1.6 \times 10^{10}$  spore/ml以上

b 製剤(外観):淡褐色懸濁可乳化油状液体

c 毒性:普通物,魚毒性:-

対象病害虫

a 野菜類 コナガ

使用方法

a 使用時期:発生初期

b 使用濃度:500倍液

c 使用方法:散布

d 本剤の使用回数:-

### 3 利活用の留意点

1) 本剤は入手後、冷暗所に保存し、開封後は早めに使いきる。

2) 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、散布液調整前に容器をよく振ってから希釈する。

3) 作物によっては褐色斑点などの薬害が発生する場合がありますので、あらかじめ散布しようとする作物2~3株に散布テストを行い薬害が発生しないことを確認し、使用者の責任において使用する。

4) 本剤は、施設だけでなく露地でも使用できるが、コナガへの感染には15以上の温度と75%以上の湿度が必要である。通常、露地およびハウス内は夕方から翌朝までは高湿度条件になるので、晴天の時には散布は夕方に行う。曇天の場合、極端な低温や高温時以外は散布時刻はこだわらなくてよい。ただし、暖房設備があるハウスでは、暖房装置が作動すると湿度が下がるので、暖房の止まった時間帯に散布するなどの注意が必要である。

5) 主成分が昆虫病原糸状菌であり殺菌剤の影響を受けやすいため、混用は避ける。殺菌剤を散布する場合は2~4日程度間隔をあける。なお、銅剤、チオファネートメチル剤およびホセチル剤は影響がほとんどない。

6) 感染好適条件下で散布すれば1回の散布で十分な防除効果が期待できるが、高い効果を安定して引き出すには、5~10日間隔で複数回散布するのが望ましい。

7) 本剤はカイコに対して毒性を示すので、桑にかからないように注意する。

8) 本剤は施設栽培トマト、ミニトマト、キュウリのコナジラミ類(普及に移す技術78号参考資料)、施設栽培ナス、ピーマンのアザミウマ類の防除にも使用できる。

9) 本剤の価格は500mlで5,500円前後、包装単位は500mlのボトル1種類である。

(問い合わせ先:農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8125)

平成16年4月作成

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

寒冷地におけるハクサイ・イチゴの環境保全型栽培技術の開発（平成12年度）

##### 2) 参考データ

露地キャベツのコナガに対する防除効果

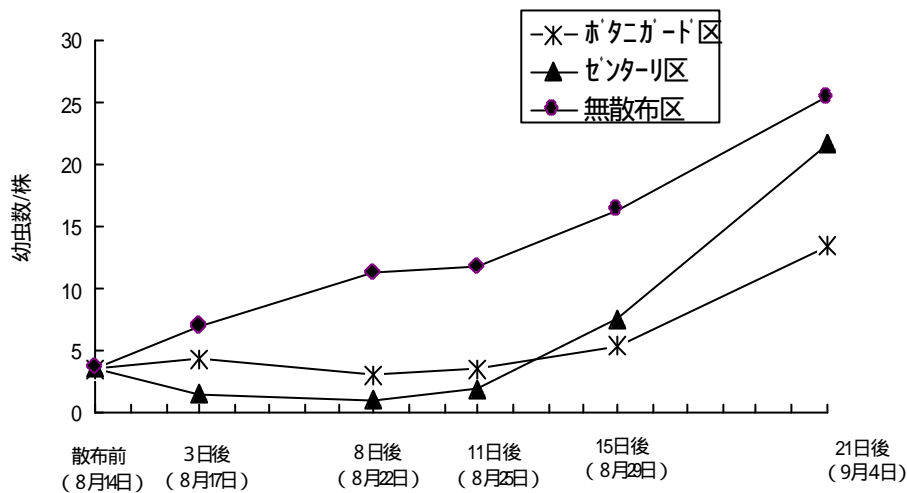


図 - 1 キャベツのコナガに対するボタニガードESの防除効果

試験場所：農園研露地圃場

品 種：Y R 青春

定 植：平成12年7月6日

面積等：畦幅80cm × 株間40cm，1区12m<sup>2</sup>，3反復。

散 布：500倍液を8月14日，22日の2回，肩掛け噴霧機で散布した。対照薬剤のゼンターリ顆粒水和剤1000倍液は8月14日の1回散布。

3) 発表論文等      なし